

令和2年第3回北海道議会定例会 予算特別委員会（知事総括） 開催状況（経済部観光局）

開催年月日 令和2年9月30日  
 質問者 日本共産党 菊地 葉子 委員  
 答弁者 知事

質問要旨	答弁要旨
<p><b>二 観光政策等について</b></p> <p><b>(一) パンデミックとカジノを巡る状況の変化等について</b>                      (菊地委員)                      カジノの問題ですが、コロナウイルスのパンデミックのリスクの下で、密室に客を詰め込む典型的な「3密」状態のカジノに客が戻ってくるのかは全く不透明です。頼みの綱のインバウンドの回復に今しばらく時間を要すると分科会で経済部は答えています。カジノを巡る状況の変化と今後の見通しについて、知事はどのように考えているのか伺います。</p> <p><b>(二) カジノを巡る収賄事件等について</b>                      (菊地委員)                      事業参入を狙う事業者からの収賄罪で秋元司衆院議員が起訴され、加森観光の前会長・北海道観光振興機構の元副会長が贈賄の罪で有罪判決を受けています。カジノが生む利権構造に不信が高まっていると考えますが、知事はどのように受け止めているのか伺います。</p> <p><b>(三) 健全な復興めざしカジノ断念について</b>                      (菊地委員)                      世界の医療関係団体が5月の末に、20カ国・地域首脳にあてた公開書簡の一節で、「世界がいま必要としているのは『健全な復興』だ」と訴えています。ギャンブル依存症をはじめ、社会に多大な害悪を広げるカジノは断念すべきと考えますが、知事はまだすがりつくおつもりなのか、伺います。</p> <p>(菊地委員)                      知事はあくまで固執の姿勢ですが、引き続きこの問題については、議論させていただきたいと思います。</p>	<p>(知事)                      海外のIR施設の状況などについてであります。今年2月以降、営業を停止していたカジノ施設は、感染防止対策の徹底のほか、収容人数の制限を設けた上で、順次、営業を再開しているところであります。現時点において多くの施設で前年度の売上げを下回っている状況にあると承知をしております。</p> <p>一方、国においては、現在、IR整備のための基本方針の決定に向け、ギャンブル等依存症対策の充実や、感染症対策を含むIR施設の安全の確保に関する議論を行っているところでございます。</p> <p>道としては、国内外の感染症の状況はもとより、IRに関する需要や、国における基本方針の検討状況など、今後の動向を注視してまいりたいと考えております。</p> <p>(知事)                      IRを巡る事件についてであります。先日、道内観光会社の前会長に対し、有罪判決が言い渡されたことは、大変残念なこととして受けとめており、信頼回復に努めていただきたいと考えております。</p> <p>現職の国会議員の件については、刑事裁判の係属中であることから、その推移を注視しているところであります。</p> <p>いずれにしても、道としては、IRを含め民間事業者による大規模施設などの誘致にあたっては、公平かつ公正な事業者の方々への対応が強く求められると認識をしております。</p> <p>(知事)                      IRに関する今後の取組についてであります。本格的な人口減少社会の到来により、国内旅行市場の縮小が懸念をされる中、本道の観光産業を発展させていくためには、新型コロナウイルス感染症への対応はもとより、道内空港の一体的運営やアドベンチャートラベルなどの取組を推進し、中長期的な視点による、新たなインバウンドの取り込み方策を検討しながら、観光需要を獲得していくことが必要であると考えております。</p> <p>このため、道としては、苫小牧市と連携して自然環境への影響対策をはじめ、交通アクセスや上下水道といったインフラ整備など、候補地の特定に向け幅広く検討を行い、北海道らしいIRのコンセプトの構築に向け、国の動向を注視しながら、計画的に取り組んでまいりたいと考えております。</p>